

2021年度第2回教育課程編成委員会 議事録

日時 2021年12月8日(水) 14:00~15:40

場所 愛仁会看護助産専門学校 会議室

出席委員 公益社団法人大阪府看護協会 会長 高橋弘枝
一般社団法人日本看護学校協議会 前会長 池西静江
社会医療法人愛仁会 尼崎だいもつ病院 院長 松森良信
社会医療法人愛仁会 愛仁会本部 看護部長 西原伸美
愛仁会看護助産専門学校 学校長 清水富男
愛仁会看護助産専門学校 副学校長 木村幸子
愛仁会看護助産専門学校 看護学科 教育主事 真島久美子
愛仁会看護助産専門学校 看護学科 教育主事 増本綾子
愛仁会看護助産専門学校 助産学科 教育主事 大石有香
愛仁会看護助産専門学校 看護学科 実習調整者 小林理絵
愛仁会看護助産専門学校 看護学科 学科調整者 長嶺洋子
愛仁会看護助産専門学校 事務部長 松田孝緒
愛仁会看護助産専門学校 事務 川口璃子(書記)

議事次第

1. 学校長挨拶
2. 教育課程編成委員会の設置趣旨説明
3. 教育課程編成委員会規程について
4. 第2回テーマ「地域に貢献できる人材を育成するには 評価方法編」
 - 1) はじめに 第1回「教育内容編」からの検討経緯について(木村副学校長)
 - 2) 意見を基に改善した教育課程内容について
 - ①新カリキュラムの改善点について(真島教育主事)
 - ②ヘルスプロモーション実習の改善点とその評価内容について(増本教育主事)

<意見交換>

- ・「成人」と「企業」との関連が学べるので良い。「ヘルスプロモーション実習」の目標である「地域が果たす役割」とは何を指しているのかわかりにくい。
- ・「老年」は介護と医療の連携だと思う。退院後、地域に帰られ、介護が介入し、医療は外付けの形となっており、そのネットワークが理解できればわかりやすい。
- ・暮らしには地域があり、看護がある。それぞれどんな看護をイメージしているのか。人の暮らしにポイントを当て現場を見せるのか、教える側がどんな看護があるのかを理解していないと、暮らしを知るレベルで終わってしまう。暮らしの中での看護サービスは何かを学ばせなければならない。
- ・ヘルスプロモーションとは、いろんな年代によって健康の定義が違う。例えば、「成人」は健康で働く、「老人」は病気をもちながら生活する、「子ども」は成長の過程等、それが理解できれば良いのではないか。

そこで看護師がどのような役割を果たすのか理解できれば良い。

- ・施設の実習時間について、カンファレンスの時間 15 分～30 分少なく感じるが、実のある実習になると思うので、時間が少なく感じる。その時々で振り返り、持ち帰れば、学びが深まるのではないかと。様々な実習場所に行くので、まとめてではなく、その場ごとに振り返れる方が良い。

③地域生活移行支援実習の改善点とその評価内容について（小林実習調整者）

<意見交換>

- ・実習目標「外来における看護の役割ができる」の実習内容「病棟からの継続する課題についての共有」の部分に違和感を感じる。入院までに外来で行う役割が多く、外来から病棟につなぐイメージをしていた。今は入院ではなく外来のみで済むことが多く、外来で多職種連携を行っているので、学びがある。
- ・「入退院支援実習」を「地域生活移行支援実習」に表現を変更した意図はありますか。移行とは場が変わるイメージだが、移行の部分にテーマを定めたのか。地域で療養生活を継続させる役割を学ばせたいと思うが、入院⇔退院の単なる場の移行と感じる。狙いをどこに置いているのかわかりにくい。
- ・外来看護の役割は、在宅療養支援のコーディネーター（看護師のすべきこと・何を見ているのか）が大切になってくる。現場では、専門的な看護師が役割を見せるという努力が必要となってくる。本来の外来がつなぐという位置づけを学ばせなければならない。
- ・地域で療養生活をされる方を支えるのは外来であり、しっかり学生に見せることが大切である。「地域生活移行支援・外来実習」のように2つのネーミングを入れるしかないのではないか。入院では入院調整があり、外来からの入院支援、入院からの退院支援、退院後継続して通院し入院しないようする等、外来看護師の役割のような流れが見える実習にしてはどうか。
- ・急性期病院における外来の役割は専門看護師（インスリン治療・抗がん剤投与など）で学べる。入院前を見せることで、これからの外来看護のイメージがつくのではないかと。入退院の際、医師や看護師やケアマネージャーなど含めたカンファレンスでも学べる。また、お年寄りを介護施設へどのようにつなぐのか、看護師とMSWの関係、さらには地域への連携も見えたら良い。急性期での外来の役割、専門看護師がいる外来の役割等、切り分けて学べれば面白いと思う。
- ・評価について、4段階でも良いのではないかと。該当なしの項目がある場合は4段階にすれば良い。「必要性がわかる」6点と「学習している」2点のレベルの違いがわかりにくく、違和感がある。項目によっては、満点が8点であっても良い。
- ・地域医療構想が進んでおり、地域包括ケアの移行をどうスムーズに行えるのかが今後重要となってくる。地域によって差があり、ここを学ぶのが大事であり、どの場面でも活かせるのではないかと。
- ・来年度までにアセスメントポリシー作成しないと、評価ができない。ディプロマを見てもどのように評価するのかの文言が難しいので、整理が必要である。

5. 各委員より総評

- ・生まれてから全ての段階が看護の対象となり、どんな看護を学ばせたいのかを明確にしてください。新しいカリキュラムで現場も育っていくのだと感じている。現場の古い感覚がブラッシュアップしていくのではないかと楽しみにしている。
- ・悩んでいる点が看護教育の課題であり重要な部分であるので、順番に整理してほしい。実習施設が整っており、他の学校より良い教育ができる場にあるので、今後のカリキュラムを楽しみにしている。
- ・「ヘルスプロモーション実習」「地域生活移行実習」は医療の本質についており、面白い取り組みである。

受け入れてくださった企業を大切にしながら、学生を育てていただければ良い。

- 新カリキュラムで育った学生が実習に来ることや、現場も細分化されていることで継続支援ができていないと感じるので、現場も引き締めなければならない。

次回会議予定

日時 2022年7月第2週・3週水曜日 14時～16時

場所 愛仁会看護助産専門学校 会議室

テーマ 未定

以上